

電

二年
画数 13
筆順
電 雷 音 電
デン

成り立ち



「かみなり」という字の「雷」に、「いなびかり」をあらわした「し」をくわえてつくった字で、「いなびかり」のことをあらわした字です。

「電光」といえば「いなびかり」のことですが、おおくは、「いなびかり」の正体である「電気」のいみにつかわれます。例電力、電流、発電、充電。

また、「私電」「打電」のように、「電車」「電信・電報」の略語としてつかわれることもあります。

使い方

▽ぼくは、電車がはしっているのを見るのが大好きです。電車のもいも、もっています。しんかんせんのもけいがほしくて、ちよきんをしています。

▽かみなりさまの正体は、電気なのだそうす。電気は、へやをあかるくしたり、あたためたり、ひやしたりします。とても、ふしぎだとおもいます。はやく電気のことを、べんきょうしたいとおもいます。

熟語例

▽電車（電気ので、レールの上をはしる車。むかしは「汽車」といって、蒸気のではしる車しかありませんでした。いま汽車はSLとよばれています。）

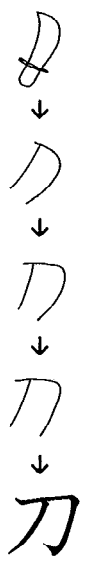
▽発電（電気をつくること。電気をおこすこと。「発電所」というところを、しっていますか？ いえや、こうじようなどでつかう電気をつくりだすところす。）

▽電話（電気ので、とおくの人と話すことのできるきかい。）
▽電池（電気のを、池に水をためるように、ためておけるどうぐ。「電池でうごくロボット」などといひます。）

刀

二年
画数 2
筆順
刀 刀
トウ
かたな

成り立ち



中国の「かたな」は、「は」のはばがひろい。そんなのはのひろい「かたな」のかたちをあらわした字で「かたな」をあらわしたものです。

「つるぎ」は「もろは」で、りようほうに「は」がついていますが、「刀」は「かたば」で、かたほうにし「は」がついていません。

刀は「きれもの」であり「ぶき」なので、「ぶき」や「きれもの」のいみにもつかわれます。

使い方

▽むかしのぶしは刀を二本こしにさしていました。長い刀を「大刀」といい、短い刀を「小刀」といひました。大むかしは「太刀」といって、ひもでこしにぶらさげました。

熟語例

▽大刀（大きな刀。ぶしがこしにさす刀のうち、長い方の刀のこと。また「とくに長い刀」のこと。）
▽小刀（小さい刀。ぶしがこしにさす刀のうち、短い方の刀のこと。「わきざし」ともいひます。）

▽小刀（ナイフのこと。）
▽刀剣（刀や剣のこと。刀は主として「切る」のにつかい、剣は「つきさす」といひつかい方をします。）

▽刀工（刀を作る人のこと。「刀かじ」ともいひました。）
▽刀身（刀の中身、といういみのこと。刀はいつもさやの中におさめられているので、さやにたいして刀のことを刀身といひます。）

▽宝刀（宝物としてたいせつにしている刀のこと。「伝家の宝刀（むかしから家に伝わっている宝刀）」）